

# 生きものハイウェイ

自然解説者 佐々木洋

ささき ひろし

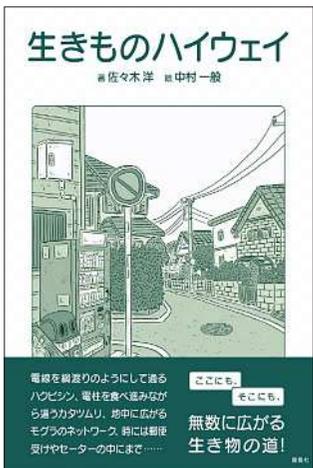


この世に存在する生き物は人間だけではない。無数ともいえるその他の生き物も存在する。そしてそれらの多くは、都市にもいる。私は、私たちの周りにたくさんある人間以外の生き物の通り道を、親しみを込めて「生きものハイウェイ」と呼んでいる。これらの中から都市でも見られるものをいくつか紹介したい。

まずは、道路沿いなどによくある植え込みに注目しよう。ここは、美しい花や葉などで私たちを癒やしてくれるだけでなく、都市に生きる生き物の大切な移動場所にもなっている。オオムラサキツツジが満開の頃は、ナミアゲハ、クロアゲハなど、大きく見応えのあるチョウがよく吸蜜に訪れる。興味深い

れる。真冬には200羽近くの編隊飛行も見かける。プテラノドンのようなカワウが上空で大群で飛ぶ光景は、まるで恐竜映画のワンシーンのようであり、迫力満点でしばらく見とれてしまう。

また、うれしいことに、最近、都市にタカの仲間などの猛禽類も増えてきた。オオタカ、ハヤブサ、チョウゲンボウなどは、東京駅や横浜駅の上空でもけっこう見かける。緑化が進み、そうした鳥たちの餌や住処などが増えてきたためとも考えられるし、それらが都市に順応してきたためとも考えられる。もしかしたら、東京都などによるクラス対策が功を奏し、それらの鳥たちが苦手とするハシブトガラスなどが以前より減ったことも理由の一つかもしれない。高層ビルの上層階にあるオフィスの窓越しに、隣のビルの上などに止まるハヤブサの勇姿を目にす



『生きものハイウェイ』 発行：雷鳥社

ことに、主にアゲハチョウの仲間には「蝶道」というものがあって、種を超えた複数の個体が、一定期間、ほぼ毎日、ほぼ同じ時刻に「蝶道」を通るのだ。まるで時刻表通りに運行している電車やバスのような。従って、昨日見た鮮やかなチョウをもう一度見たければ、よほどの荒天にでもならない限り、明日も同じ時刻に同じ場所で待っていればよいのだ。次に、空を見上げてみよう。ビル街であっても、5分とたたぬうちに鳥が通過するだろう。1羽だけの時もあるれば大きな群れの時もある。東京や横浜などでは、首の長い大きなカワウもよく飛んでいる。カワウは魚を好んで食べるので、カワウが見られるのは都市の河川や港湾に魚が増えた証しとも考えら

ると、胸の高鳴りを覚えるのは私だけではあるまい。少し歩いて、海水の混じる運河などにかかる橋から、水面を眺めてみよう。まず目立つのはボラだ。ボラは出世魚で、オボコ、スバシリ、イナ、ボラ、トドなどと呼び名が変わる。余談だが、結局という意味の「とどのつまり」という言葉は、ボラが最後にトドという呼び名になることからきている。ボラは水面からよくジャンプするので、それでそこに魚道があることに気が付くこともある。

また、座布団ほどもある大きなアカエイが何匹も同じルートを行き来しているのもよく見ることがある。子どもたちがその様子を発見して大騒ぎしたりする。さらに、近ごろ都市の河川などで目立つようになってきたのがクロダイだ。大群で回遊している姿も頻繁に見かける。アカエイやクロダイの都市での増加は、地球温暖化に伴う水温の上昇も原因の一つと考えられるが、かつては悪臭を放ち「死の川」とも呼ばれた運河などの水質が格段に良くなってきたことも無関係ではあるまい。

忙しい毎日、ふと足を止めて「生きものハイウェイ」を眺めたり意識したりすることは、都市に暮らす人間にとって大きな癒やしになると同時に、緑化を進めるうえで重要なヒントを得られるはずである。

## 時の調べ Essay

略歴  
東京都出身、在住。プロフェッショナルの自然解説者として「自然の大切さやおもしろさを、多くの人々と分かち合い、そのことを通じて自然を守っていきたい」という思いのもと、国内外で自然解説を続けている。著書に『さみのすむまちではっけん！』となりの「ミステリー生物」ずかん（時事通信出版局）など多数。NHKテレビ『ダーウィンが来た！』など出演。BBC（英国放送協会）動物番組『アドバイザー』。NHK大河ドラマ生物考証者。